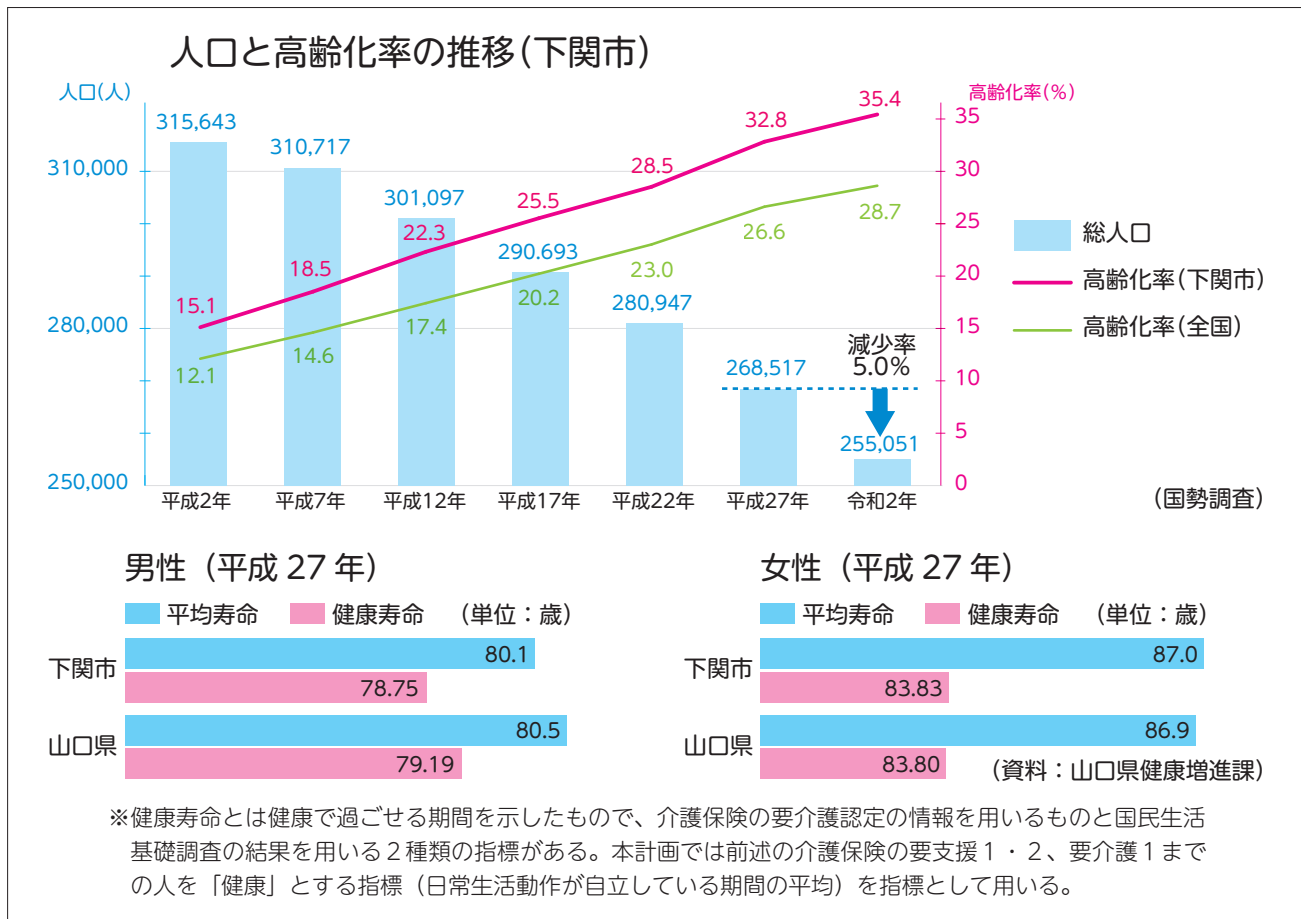


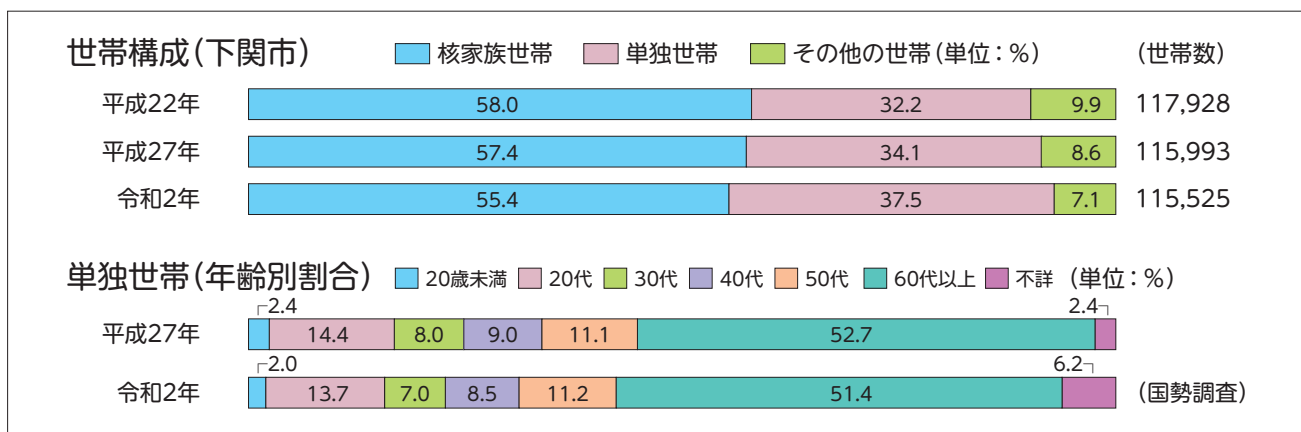
第2章 食をとりまく現状と課題

統計数値は小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合があります。

1 人口・世帯構成



本市の人口は、減少し続けており、前回調査(平成27年)からの減少率は5.0%と過去最高となっています。一方で高齢化率は上昇し続け、全国平均(28.6%)を上回っています。また、健康寿命^{*}は男女とも県とほぼ同じくらいで平均寿命と比較して約2~4年短くなっています。

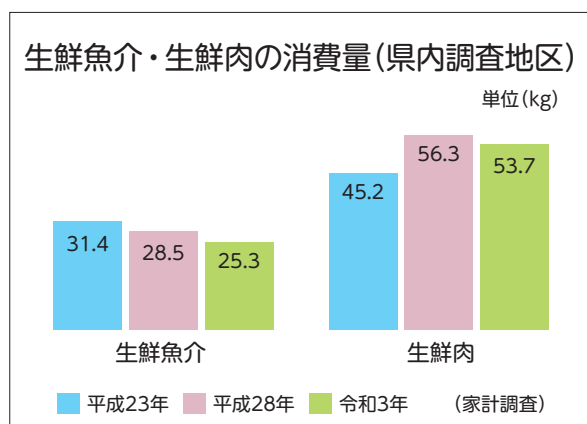
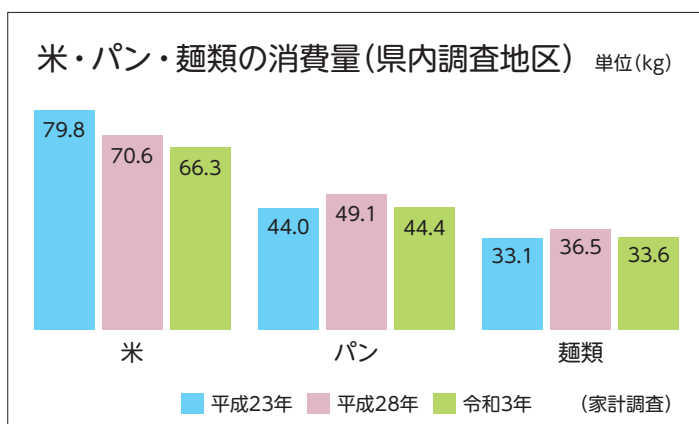
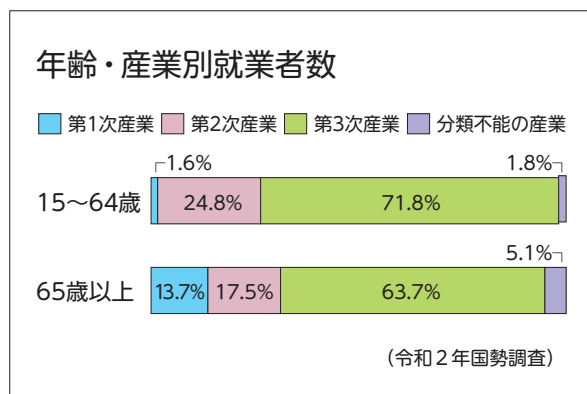
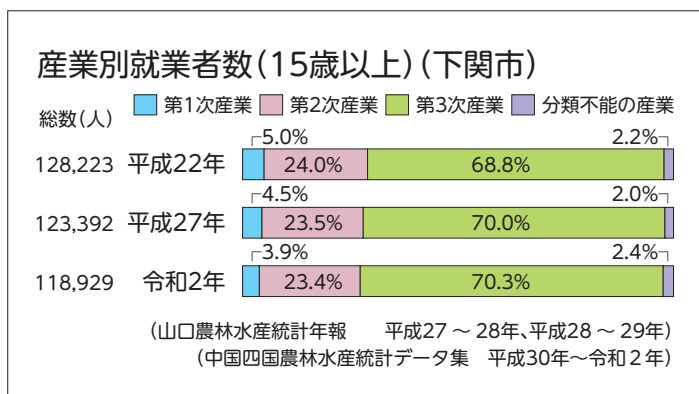


核家族世帯と単独世帯の合計割合が徐々に増え、9割を超えています。特に、単独世帯の5割以上は60歳以上となっており、一人暮らしの高齢者が増えてきています。世帯構造やライフスタイルの変化の大きい現代では、多様な暮らしに合わせた取組が必要となってきます。



2 食をとりまく現状

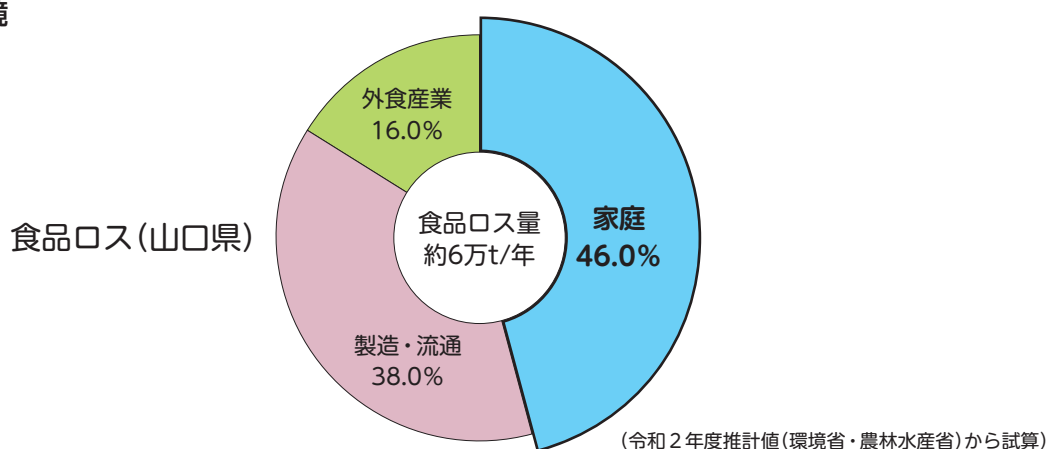
(1) 食と産業



第1次産業の担い手は年々減少し高齢化の進行と併せて、後継者不足だけでなく知識や技術、地域の食文化の衰退にもつながる大きな問題です。また、食生活の多様化や物価の上昇により食料品の消費行動にも変化が見られます。

本市は海や山に恵まれた自然環境にあり、この資源を活かした産業の振興とともに、多様な関係機関と連携し、地産地消を推進することにより、故郷の経済活性につなげる取組が必要です。

(2) 食と環境

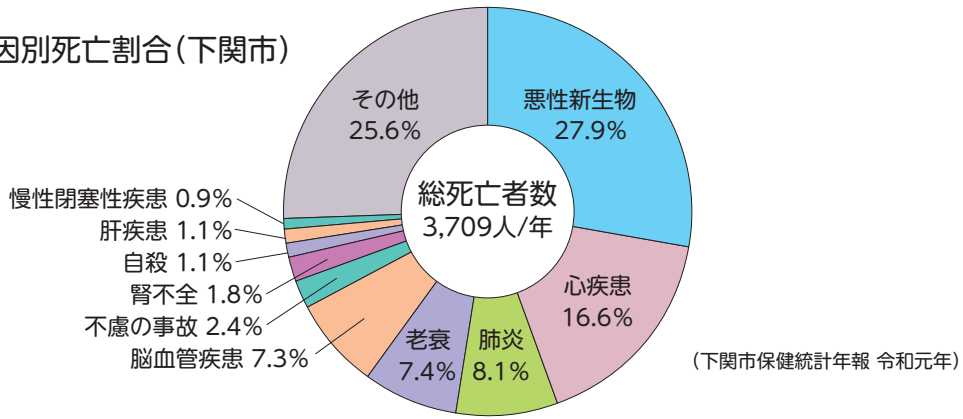


山口県における食品ロスは、家庭からの廃棄が約半数を占めています。食品ロスを減らすためには、「買いすぎない、作りすぎない、盛りすぎない」を意識することや堆肥化して循環する、フードバンクを活用する等一人ひとりの意識や行動が大きな効果につながります。また、食品の製造、流通、消費、廃棄等の各段階で一体となって食品ロスの発生抑制に取り組むことが必要です。



(3) 食と健康

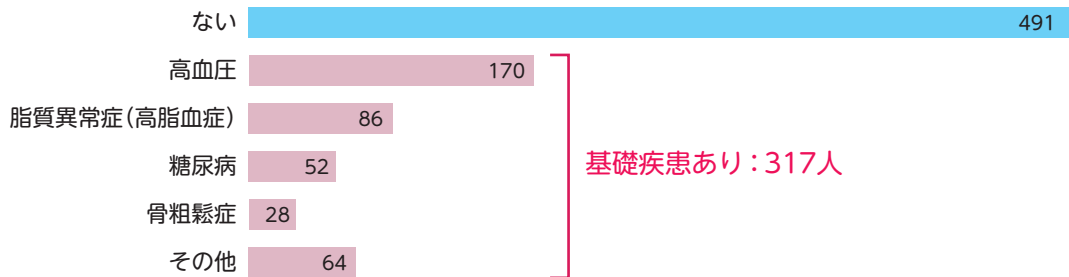
死因別死亡割合(下関市)



基礎疾患の有無(下関市、20歳以上)

〈これまでに、医療機関や健康診断で下記の病気と言われたり、その疑い(要観察、要精密検査等)と言われたことがありますか〉

(複数回答可)(単位:人)

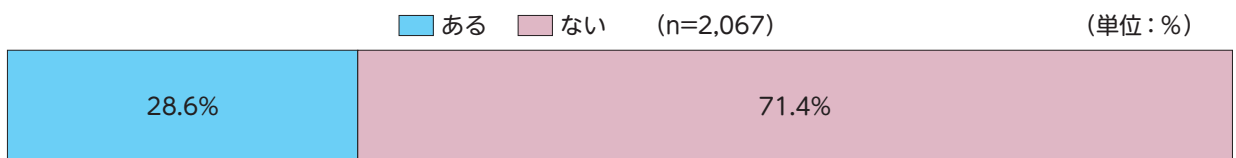


(第3次下関ぶちうま食育プラン評価アンケート ※アンケート概要は6ページ)

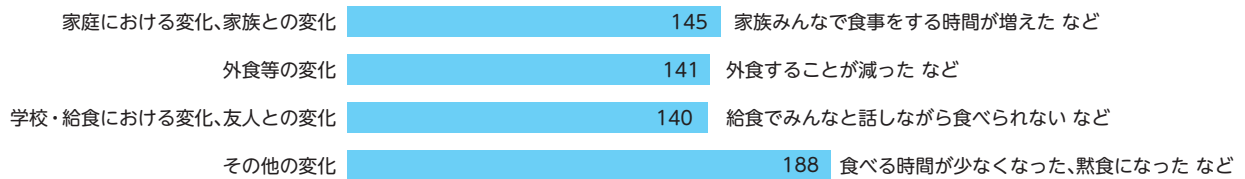
3大生活習慣病である悪性新生物(がん)、心疾患、脳血管疾患は依然として死因の半数を占めています。回答した人の1/3は生活習慣病のリスクとなる高血圧や脂質異常症、糖尿病と診断されたことがあると回答しています。

n=回答数

新型コロナウイルス感染症をきっかけとした食生活の変化の有無(下関市、こども)



〈具体的な変化〉(複数回答可)(単位:人)



新型コロナウイルス感染症をきっかけに食生活が変わったと答えたこどもは約3割で、「給食で話しながら食べられなくなった」、「家族と食事をする時間が増えた」、「外食をする機会が減った」等、良い面も悪い面もありました。



3 「第3次下関ぶちうま食育プラン」における目標の達成度

第3次下関ぶちうま食育プラン評価アンケート

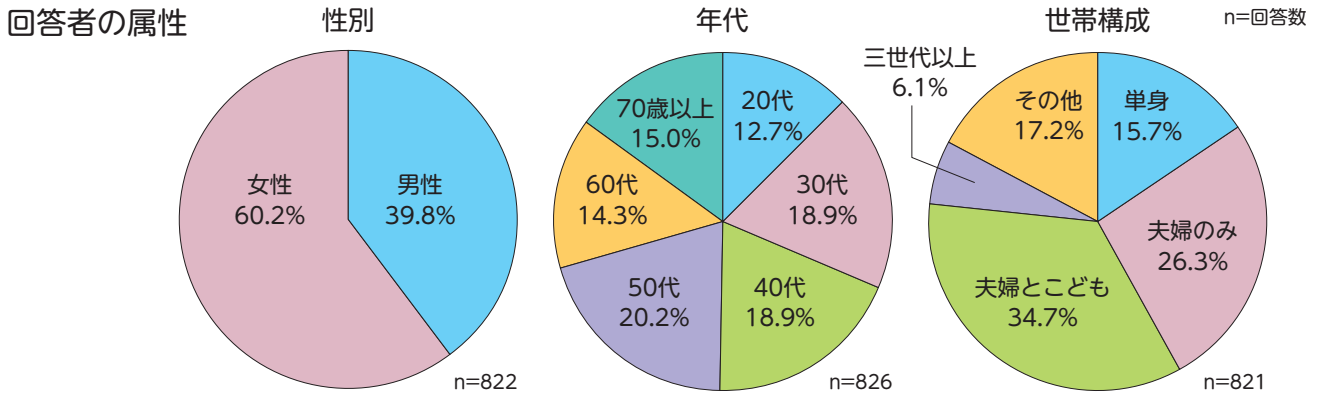
- (目的) 第3次下関ぶちうま食育プランに掲げる目標に対する達成度の把握
 (実施時期) 令和4年4～5月
 (対象) ① 市内在住20歳以上 ② 市内小学6年生
 (回収数等) ① 配布者数：2,100人 回収数：827人 (回収率：39.4%)
 ② 回収数：2,067人 (回収率：概ね100%)
 (方法) ① 下関市住民基本台帳より性別及び年代別に層化無作為抽出し、郵送またはWEB調査を実施。
 ② 市内小学校を通じて実施。

項目		対象	目標値 (%)	評価値 (%) (令和4年)	前回値 (%) (平成29年)
1	お米を1日2回以上食べる人を増やす	大人	85	69.8	↓ 74.1
		こども	95	71.3	↓ 91.7
2	緑黄色野菜を毎日食べる人を増やす	大人	50	32.2	↓ 37.9
		こども	60	50.8	→ 50.8
3	魚を週に3日以上食べる人を増やす	大人	80	48.4	↓ 54.1
		こども	80	56.2	↓ 60.7
4	食生活について気をつけていることがある大人を増やす	大人	90	73.2	↑ 69.7
5	食べ物を無駄にしない人を増やす	大人	80	47.7	- 前回目標「食べ残しをしない人を増やす」 48.9
		こども	80	66.8	- 49.5
6	「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をする人を増やす	大人	80	52.4	↑ 48.1
		こども	90	82.4	↑ 78.8
7	食事の時間が楽しいと感じる人を増やす	大人	80	92.8	★ -
		こども	95	93.4	↓ 95.3
8	1日1回誰かとゆっくり食事をとる大人を増やす	大人	85	76.7	- 前回目標「1日1回家族そ ろってゆっくり食事をとる人 を増やす」 68.9
	1日1回家族とゆっくり食事をとるこどもを増やす	こども	95	93.3	- 75.5
9	月に1回誰かと一緒に食事をつくるこどもを増やす	こども	60	43.9	↑ 40.5
10	週に2回以上自分で食事をつくる大人を増やす	大人	75	64.9	↑ 60.4
11	農林漁業体験のある人を増やす (過去1年) ※野菜を育てる、田植え体験、くだもの狩り、魚釣りなど	大人	65	38.6	- 前回目標「農林漁業体験 のあるこどもを増やす」 -
		こども	95	71.1	- 81.0
12	食事の手伝いをするこどもを増やす	こども	90	67.7	↑ 67.5
13	郷土料理を家で食べたことがある人を増やす (過去1年) ※地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理など (けんちょう、ちやなます、 ふく・くじら料理など)	大人	70	54.6	- 前回目標「郷土料理を食べ たことがある人増やす」 74.6
		こども	80	56.0	- 96.7
14	食品を購入するときに下関産、山口県産を意識する大人を増やす	大人	70	55.7	↑ 43.7

★：目標値を達成した項目 ↑：前回値より上回った項目 ↓：前回値より下回った項目
 →：変化のなかった項目 -：前回値がない項目

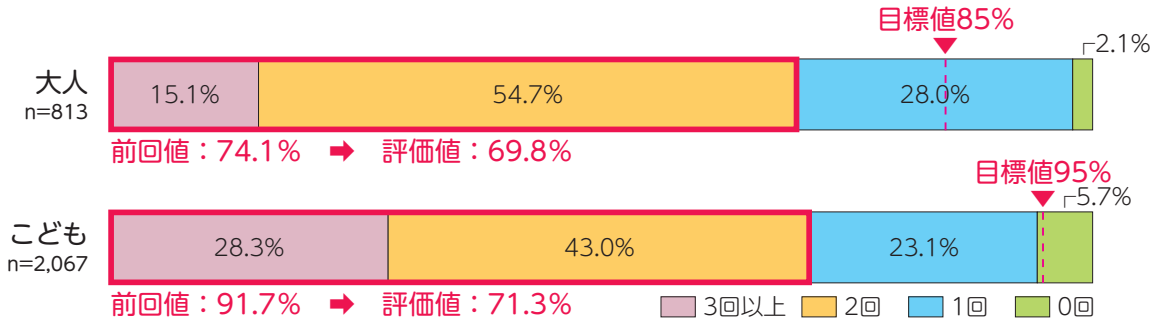
斜体の数値は参考値





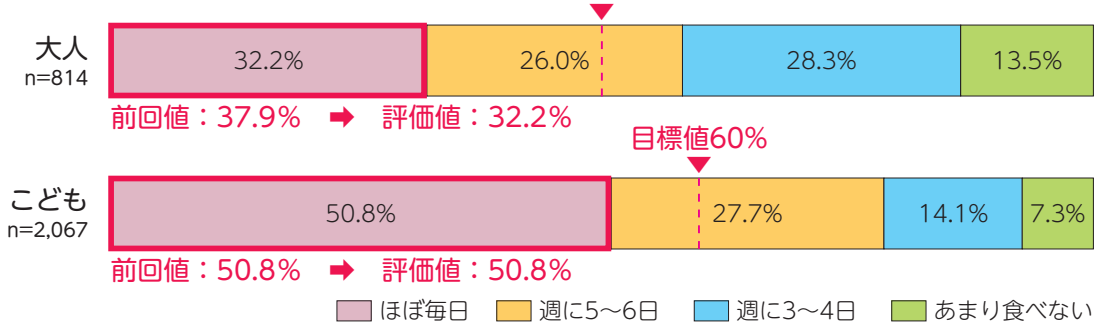
目標1 お米を1日2回以上食べる人を増やす

● あなたは普段、お米（ご飯、おかゆ、焼き飯等）を1日に何回食べていますか。



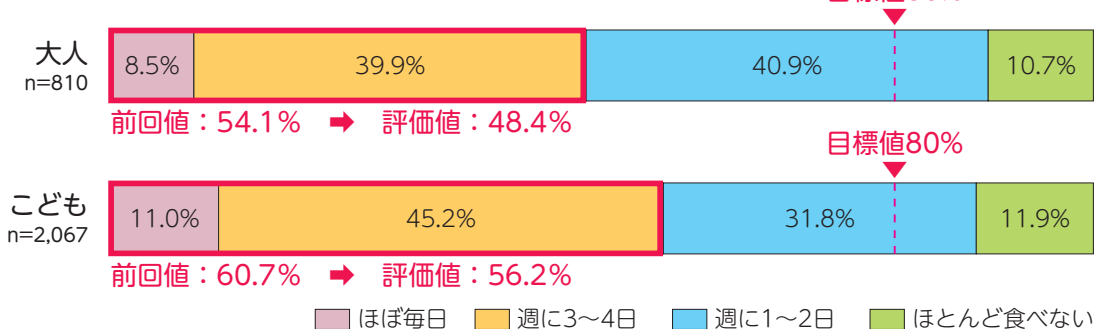
目標2 緑黄色野菜を毎日食べる人を増やす

● あなたは普段、緑黄色野菜（トマト、人参、ほうれん草、南瓜、ピーマン等）をどのくらい食べていますか。



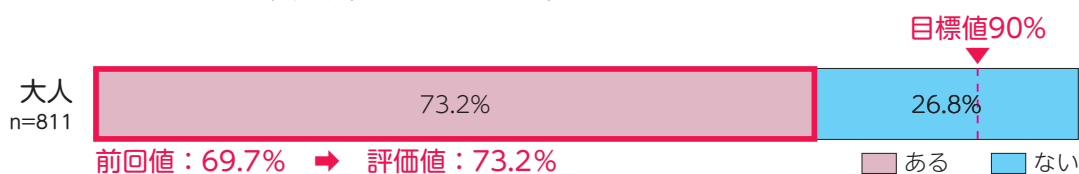
目標3 魚を週に3日以上食べる人を増やす

● あなたは普段、魚（刺身・煮魚・焼き魚等）や貝類、エビ・かに・たこ・イカをどのくらい食べていますか。



目標4 食生活について気をつけていることがある大人を増やす

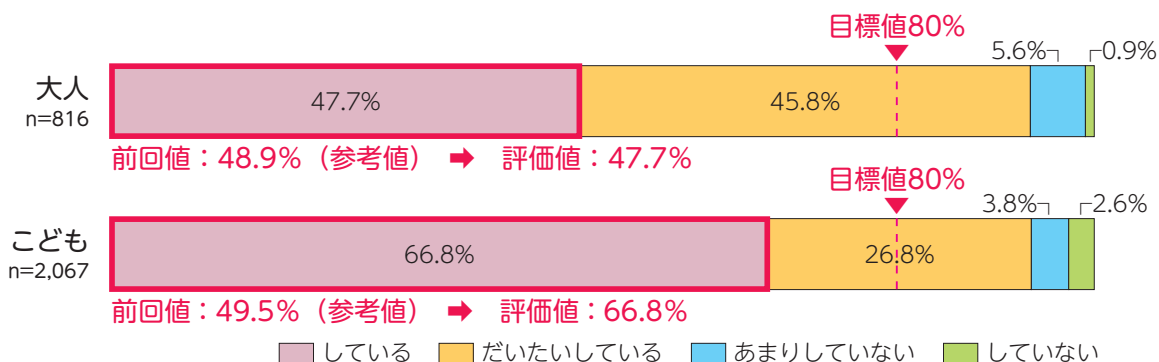
● あなたは普段、食生活について気をつけていることがありますか。



目標1～4の全てについて達成されておらず、特に目標1～3は前回値を下回る結果でした。バランスのとれた食事をするなど、規則正しい食生活を実践していくためには家庭での食事だけでなく、外食や中食（飲食店やスーパーなどで購入した調理済みの食品を自宅や職場等で食べること）においても食品を選択する力を身につけることが求められます。

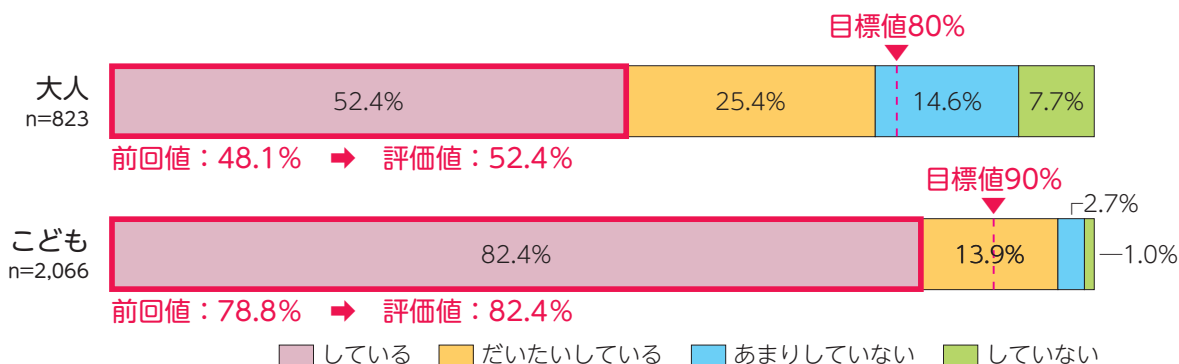
目標5 食べ物を無駄にしない人を増やす

● あなたは、食べ物を無駄にしないようにしていますか。（例：買いすぎない、作りすぎない、自分が食べられる量だけお皿に盛る等、食品ロスを出さないようにすること）



目標6 「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をする人を増やす

● あなたは普段、「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をしていますか。

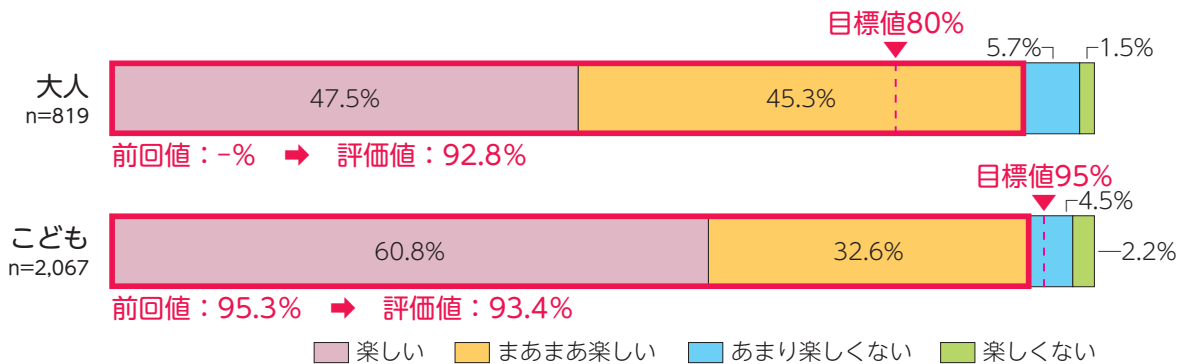


目標5、6について大人、子ども、ともに達成されませんでした。しかしながら、感謝の念をもって食事の挨拶をする人は前回よりも増加しています。食べ物が食卓に運ばれるまでの背景に思いを巡らせ、食に関わる全ての人に感謝の気持ちを持つことや、食べ物を無駄にしないようにする知識や技術を身につけることがさらに求められます。



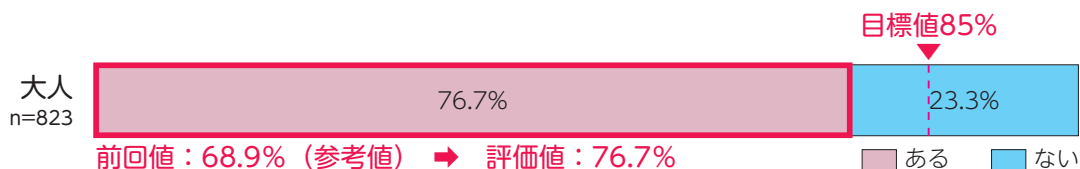
目標7 食事の時間が楽しいと感じる人を増やす

● あなたは、食事の時間を楽しいと感じていますか。



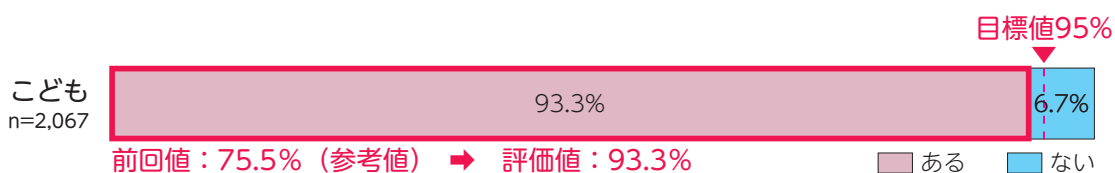
目標8 1日1回誰かとゆっくり食事をする大人を増やす

● あなたは、1日に1回は誰かとゆっくり食事をすることがありますか。



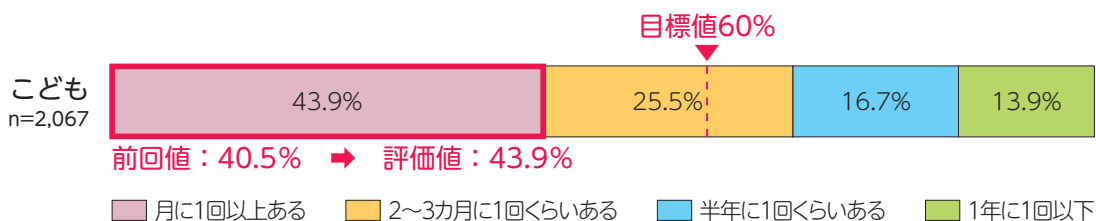
目標8 1日1回家族とゆっくり食事をする子どもを増やす

● あなたは、1日に1回は家族の誰かとゆっくり食事をすることがありますか。



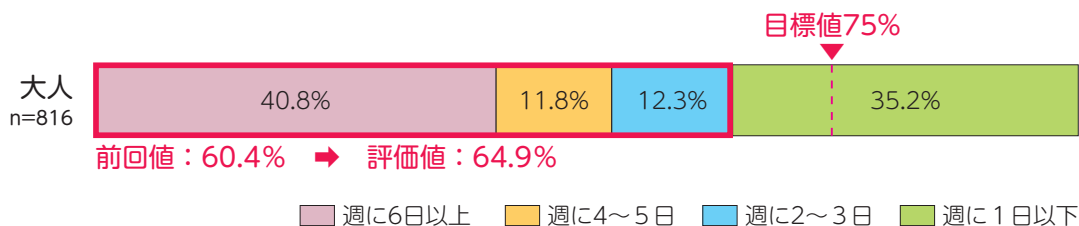
目標9 月に1回誰かと一緒に食事をつくる子どもを増やす

● あなたは、家族や友人といっしょに食事をつくることがありますか。



目標10 週に2回以上自分で食事をつくる大人を増やす

● あなたが、家で、自分で料理を作る頻度を教えてください。

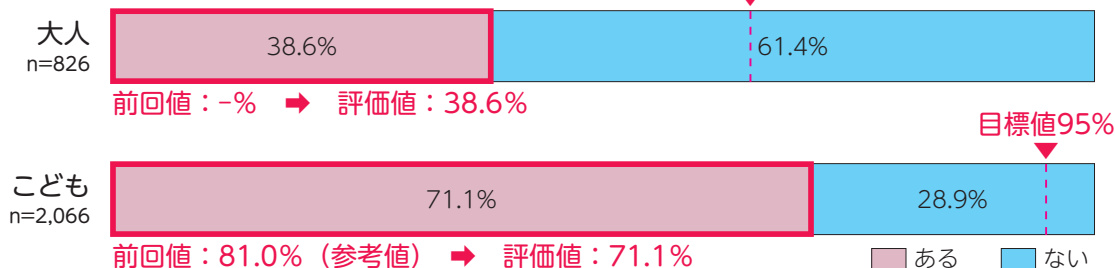


目標7については、大人は達成しており、こどもも目標値に近い結果でした。目標8、9については前回値よりも上がりましたが目標達成とはなりません。人と人の距離が制限されるコロナ禍においても、食を通じたコミュニケーション等で「食の楽しさ」を感じることや、こどもの頃から食事づくりに携わることは日々の食事、さらには将来の自分の食生活をより良いものにしていく上で不可欠なものです。

目標10については達成されませんでした。回答者の約4割は自分で食事の準備をしておらず、その内約1割は、料理を作る頻度が週に1日以下でした。自分で食事の準備をする・しないに限らず、料理をつくる技術を持っていることは日々の食事の準備だけでなく、家族や次の世代に食に関する様々な知識や技術を伝える一助となります。

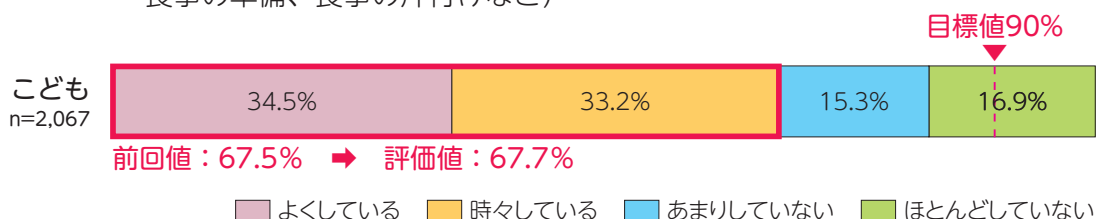
目標11 農林漁業体験のある人を増やす（過去1年）

● あなたは、過去1年間で、農業や漁業の体験（家庭菜園、田植え、くだもの狩り、魚つり等）をしたことがありますか。 目標値65%



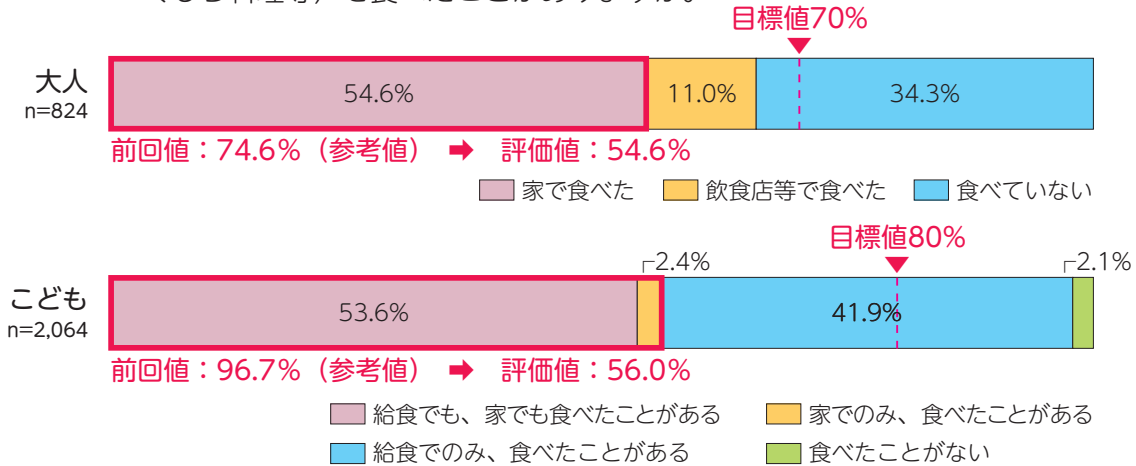
目標12 食事の手伝いをするこどもを増やす

● あなたは、ふだん、家で食事のお手伝いをしていますか。（おつかい、調理、食事の準備、食事の片付けなど）



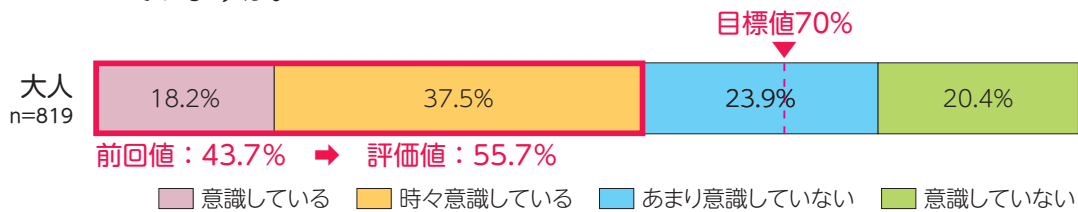
目標13 郷土料理を家で食べたことがある人を増やす（過去1年）

● あなたは、過去1年間で、下関市や山口県の郷土料理（けんちょう、ふぐやくじら料理等）を食べたことがありますか。



目標14 食品を購入するときに下関産、山口県産を意識する大人を増やす

● あなたは、外食をする時や食品を購入する時に、下関産、山口県産を意識していますか。



目標11～13については、達成されておらず、目標14については、前回値よりも上がってはいますが、達成されていません。目標14の意識していない理由として「関心がない」ことが最も多く挙げられています。

学校等で学習するだけでなく、家庭などで地元の産業や食文化について体験したり考える機会を増やし、より多くの市民が地元の食へ関心を持つことができるような取組が求められます。